



The Japanese Red Cross Society of Nursing Science

日本赤十字看護学会

日本赤十字看護学会ニュースレター 第7号 2009年12月発行

Vol.7, 2009.

NEWS LETTER



赤十字は戦場で博愛の旗を掲げることにより、いつかは人類の協力の力で建設することのできるよりよき世界を約束するかのようである。

解説 赤十字の基本原則 人道機関の理念と行動規範
(ジャン・ピクテ著/井上忠男訳、P167、東信堂)より

◀ 台風16号で被害を受けたフィリピンで救護にあたった西村看護師
(2009年10月) 日本赤十字社

理事長挨拶

日本赤十字看護学会 理事長 濱田悦子

会員の皆様 ご機嫌いかがお過ごしですか。新しい理事会は、理事12名、監事2名という役員のもと、運営をスタートして早くも6ヶ月が経ちました。

本学会は、赤十字の理念に基づき会員相互の研鑽と交流を図り、看護学の発展をめざすことを目的として、2000年5月27日に発足いたしました。今年度は創立10周年を迎え、この間の学会活動を振り返り、今後の活動の方向性を考える機会として、10周年記念式典を挙げてまいりました。

節目の年を迎えた第10回学術集会は、「語ろう、看護の夢」をテーマに大会長の守田美奈子氏と日本赤十字看護大学の教職員、学生が一丸となって開催されました。大変な盛況の中で終了し、参加会員各々が次のステップアップの夢を描き、また新たな課題を発見し、新たな種が蒔かれたものと思います。本学会がさらに飛躍するために、すべての会員が自由・闊達に参加できるような条件を整備し、新理事会一同、一層の努力を続けたいと考えております。

本学会は、会員数に変動が見られることが一つの課題です。今後は魅力ある学会にし、継続的に会員として所属していただけるように努力する必要があります。

また、実践と教育と研究に携わる者が相互に連携し研鑽することを学会活動の中核におき、研究成果の積み重ねをする時期ではないかとも考えております。研究活動委員会や臨床看護実践開発委員会における活動が確実に成果を挙げられるよう、さらなる充実を図っていきたくと考えております。そして、赤十字の理念と諸原則が、看護実践としてどのように行動化されているのかを検討し、吟味することが、赤十字看護教育を発展させることにつながります。国際活動委員会、災害看護活動委員会の活動成果を実践や教育の場に還元できるよう努力していきたくと思います。

今後とも本学会が専門職としての生涯教育の機会および研鑽の場となり、看護の質の向上・発展に寄与できるような学会を目指し、微力ではありますが学会活動に尽力していきたくと思います。会員の皆様のご協力とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

みんなの創意と活力で創る学会に

日本赤十字看護学会 副理事長 川嶋みどり

社会も医療環境も複雑に変化する現代であって、伝統的な赤十字精神をどのように継承発展させるか、そのことが、看護実践や看護教育にとってどのような意味があるのかが問われていると思います。赤十字精神といっても、ことさらにこれを美化するのではなく、その本質に流れるヒューマニティが、看護の専門性のよりどころとしてのケアリングに続くものであることを、学術ならびに経験知を通して明らかにする過程は、とりもなおさず質の高い看護実践を担保することに通じると信じましょう。困難に目を向ければきりが無いけど、何と言っても全国に広がる教育・臨床のネットワークは赤十字の強みであり、誇りでもあります。これを活かして、施設や経験の差異を超えた交流ができることを願います。学会結成以来、10年間の助走を経ていよいよ本格的な活動開始です。これまでの蓄積を有効に活用しながら花開かせるために努力をしたいと思っております。プロセスには多くの困難があっても、未知の探索の結果得られる楽しさを夢見ましょう。どんな小さな実践でも臨床でこそ味わうことのできる喜びを文字に表して発表し、そして交流しましょう。赤十字で働く看護師みんなの活力のもとになるような学会にしたいですね。個々の会員の主体的な参加でみんなの学会を創り上げましょう。

平成21年総会にて、以下の新理事・新評議員が承認されました。

(五十音順)

理事長 濱田 悦子 (日本赤十字看護大学)
副理事長 川嶋みどり (日本赤十字看護大学)
理事 阿保 順子 (北海道医療大学)
井部 俊子 (聖路加看護大学)
奥村 潤子 (日本赤十字豊田看護大学)
小原真理子 (日本赤十字看護大学)
黒田 裕子 (北里大学)
佐々木幾美 (日本赤十字看護大学)
杉浦美佐子 (日本赤十字豊田看護大学)
高島和歌子 (熊本赤十字病院)
野口 眞弓 (日本赤十字豊田看護大学)
本庄 恵子 (日本赤十字看護大学)
監事 飯村 直子 (東邦大学)
中木 高夫 (日本赤十字看護大学)

評議員名簿 (任期：平成21年度総会後～平成24年度総会)

氏名	所属
秋吉 信子	元 大分赤十字病院
安部 綾子	元 山口赤十字病院
阿保 順子	北海道医療大学
雨宮多喜子	佐久大学
飯村 直子	東邦大学
市江 和子	聖隷クリストファー大学
伊藤 榮子	日本赤十字秋田短期大学
伊藤ヒロコ	大阪赤十字病院
井部 俊子	聖路加看護大学
上野 富衣	北見赤十字病院
江田 柳子	福岡赤十字病院
江本 リナ	日本赤十字看護大学
大西 章恵	日本赤十字北海道看護大学
奥村 潤子	日本赤十字豊田看護大学
小田 初美	京都第二赤十字看護専門学校
柿原加代子	豊橋創造大学
唐澤由美子	長野県看護大学
烏 トキエ	秋田県看護協会
川嶋みどり	日本赤十字看護大学
川西 美佐	日本赤十字広島看護大学
川原由佳里	日本赤十字看護大学
黒田 裕子	北里大学
児玉真利子	旭川赤十字病院
小森 和子	名古屋第一赤十字病院
猿田久仁子	秋田赤十字病院
下山 節子	日本赤十字九州国際看護大学
杉浦美佐子	日本赤十字豊田看護大学

氏名	所属
関谷由香里	愛媛県立医療技術大学
高島和歌子	熊本赤十字病院
茅喜田恵子	愛知医科大学
武井 麻子	日本赤十字看護大学
竹中 愛子	大分赤十字病院
筒井真優美	日本赤十字看護大学
鶴田 恵子	日本赤十字看護大学
永井眞由美	広島大学
中木 高夫	日本赤十字看護大学
西片久美子	日本赤十字豊田看護大学
野口 眞弓	日本赤十字豊田看護大学
濱田 悦子	日本赤十字看護大学
原 玲子	宮城大学
平木 民子	香川県立保健医療大学
平澤美恵子	日本赤十字看護大学
福島 道子	国際医療福祉大学大学院
藤田 冬子	長浜赤十字病院
本庄 恵子	日本赤十字看護大学
松田日登美	国家公務員共済組合連合会東海病院
松本ゆかり	神戸赤十字病院
宮崎 妙子	高槻赤十字病院
村上 睦子	日本赤十字看護大学
村松 静子	在宅看護研究センター
森 美智子	日本赤十字秋田看護大学
谷津 裕子	日本赤十字看護大学
柳 めぐみ	姫路赤十字看護専門学校

編集委員会

編集委員会 委員長 黒田 裕子

編集委員会の任を仰せつかりました北里大学看護学部の黒田裕子です。本学会創設時にも編集委員会を担当させていただきましたが、あれから数年経ち、本学会も拡大発展してきておりますので心機一転し、謹んでこの任を無事に果たさせていただきたいと思っております。会員の皆様のご協力なくしては成り立たない編集委員会の活動です。皆様、大いに学会誌への投稿をよろしくお願いいたします。

今期の編集委員を紹介させていただきます。以下、黒田を加えて計8名で構成させていただきました。中木高夫氏(日本赤十字看護大学)、出口禎子氏(北里大学看護学部)、谷津裕子氏(日本赤十字看護大学)、江本リナ氏(日本赤十字看護大学)、北素子氏(東京医療保健大学)、山田紋子氏(北里大学看護学部)、棚橋泰之氏(北里大学看護学部)です。

昨今、看護領域の学会も100学会以上となっております。

そのために投稿論文を獲得することがたいへん難しい状況に直面しております。しかしながら、本学会は全国にある赤十字の病院、大学、短大などの組織を有する特有のネットワークをもっているという強みがあり、そういう意味ではたいへん心強い土台があると思っております。昨年度から学会誌は学術集会号以外に、年2回の発行を開始しました。投稿論文が増加していかない限り、学会誌も発行ができない事態になってしまいます。この場をお借りしまして、学会員の方々の投稿を大いに期待いたしますことをお伝え申し上げます。日頃の看護実践の成果や看護管理、看護教育など多義にわたる活動の成果をまとめていただき、投稿していただけますように、よろしくご支援ください。投稿は随時受け付けております。編集委員会一同、学会員の皆様の投稿をお待ち申し上げます。

編集委員

中木 高夫 (日本赤十字看護大学)	江本 リナ (日本赤十字看護大学)	棚橋 泰之 (北里大学看護学部)
出口 禎子 (北里大学看護学部)	北 素子 (東京医療保健大学)	
谷津 裕子 (日本赤十字看護大学)	山田 紋子 (北里大学看護学部)	

研究活動委員会

研究活動委員会 委員長 野口眞弓

平成21年6月から24年6月まで3年間の活動を担当させていただき研究活動委員会のメンバーは、留任して委員長を務める私と、新たに委員になられた飯村直子先生(東邦大学医学部看護学科)、西片久美子先生(日本赤十字豊田看護大学)、本庄恵子先生(日本赤十字看護大学)、佐々木幾美先生(日本赤十字看護大学)の5名です。

前委員会は、奥野茂代先生(京都橘大学)、渡辺恭子先生(日本赤十字広島看護大学)、植田喜久子先生(日本赤十字広島看護大学)、私の4名で担当させていただきました。その3年間の活動のうち、平成19年、20年、21年の各学術集会においては、東京保健医療大学の北素子先生による質的研究に関する看護研究セミナーを開催しました。セミナーの実施にあたっては、北素子先生の全面的なご協力を賜り、会員の皆様の研究活動への支援を行うことができました。この場を借りてお礼申し上げます。新委員会では、前委員会の活動を受け継ぎ、会員の皆様の研究活動がさらに発展するように努めますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

研究活動委員会は、臨床における研究活動の支援と研究助成を担当します。

研究活動の支援としては、年1回の看護研究セミナーの開催を

行っております。平成13年度からこれまでに開催された9回のセミナーは、第1回～第3回が臨床における研究を活性化すること、第4回～6回が臨床におけるアンケート調査を充実したものとすること、第7回～9回が上述の質的研究を看護研究に取り入れるためのものでした。新委員会は第10回以降のセミナーを企画、運営します。来年6月の学術集会において開催する第10回看護研究セミナーでは、「看護研究の倫理的配慮の実際」について、研究活動委員会のメンバーである佐々木幾美先生が短い講義を行なった後、委員会のメンバーが、①学会発表した研究の雑誌への投稿、②研究計画書の作成、③アンケートの作成、④データの分析などについて、よろず相談を受ける予定です。学会員の皆様のご参加をお待ちしております。

研究助成については、看護実践に関する研究の助成を平成16年度から開始し、これまでに14の研究に対して助成金を交付しました。平成22年度研究助成の応募期間は平成22年2月1日～2月28日です。助成金総額は年間60万円で、研究1題について30万円を限度として交付しています。本学会のホームページに募集要項、申請書などがございます。皆様のご応募をお待ちしております。

研究活動委員

飯村 直子(東邦大学医学部看護学科)
西片久美子(日本赤十字豊田看護大学)

本庄 恵子(日本赤十字看護大学)
佐々木幾美(日本赤十字看護大学)

臨床看護実践開発事業委員会

臨床看護実践開発事業委員会 委員長 井部俊子

このたび、第2期の臨床看護実践開発事業委員会(「伝えたい看護の技」委員会)の委員長をお引き受けすることになりました。本委員会の主な役割は、臨床看護の開発支援であり、具体的には、臨床に埋もれている看護の技の発掘、看護の技の検証、そして検証された看護の技の普及とされています。

本委員会は、平成17年に看護系学会等社会保険連合(看保連)が看護の立場から社会保険制度の在り方を提言し、診療報酬体系及び介護報酬体系等の評価・充実・適正化の促進を目的とする組織として発足したことを機に活動を始めた委員会です。本委員会の活動を通じて臨床に埋もれている看護の技を発掘し、最終的には、看保連を通じて、診療報酬改定の議論における看護

のエビデンスを提供できるようにしていきたいと考えます。

学会員の皆様には、すぐれた看護ケアの掘りおこしと情報提供ならびに、看護ケアのエビデンスとなる研究活動の推進へのご協力をお願いします。

なお、情報提供の連絡先は、下記の委員に直接お伝えいただくか、本学会ホームページの伝えたい「看護の技」(<http://plaza.umin.ac.jp/%7Ejrcsns/cgi-bin/bbs/patio.cgi>)というサイトで受け付けておりますのでご利用ください。

(本学会員共通ID:jrcsns パスワード:nisseki)

臨床看護実践 開発事業委員

川嶋みどり(日本赤十字看護大学)
守田美奈子(日本赤十字看護大学)

松永 佳子(東邦大学)
野田有美子(さいたま市立病院)

中村 綾子(聖路加看護大学)

国際活動委員会

国際活動委員会 委員長 杉浦美佐子

国際委員会は、学会の国際的情報の収集・発信、諸外国の学会・研究機関との国際交流、学会員の国際的活動支援などを担当する常設委員会として設置されています。設置方針に基づいて、これまで主として以下の活動を行ってきました。

- (1) 情報発信（英語版ホームページなど）
- (2) 世界看護科学学会、発起団体としての活動、第一回学術集会開催の企画等に参加
- (3) 海外赤十字・赤新月社の看護職養成の実態調査
- (4) その他国際交流に関する事項

これらの活動については一定の成果を上げてきましたが、一方で、国際委員会の活動が学会全体に見えにくい印象もあるように思います。日本赤十字看護学会の学会員の中には、国際的な活動をされている方が少なくありません。看護活動・調査・研究の舞台も国際的な広がりを持ってきています。今後、学会活動を取り巻く環境が、ある意味で日常的に

国際化する中で、あらためて国際委員会の活動をどのように再構築していくのか問われていると思います。次のような課題が国際委員会にとって重要な課題であると認識しています。

第一は、「赤十字らしい国際的な活動」を学会員に伝える交流セッション活動をどのように継続・発展させていくかという課題です。本年度は日本赤十字北海道看護大学で6月に第11回の学術集会が行われます。どのような内容、活動をしていくのか現在、新委員のなかで話し合っています。第二に、国際交流の間口を広げ、多くの学会員が情報の受発信にアクセスする場を広げることです。学会誌、ニュースレター、ホームページに国際的情報を提供すると共に、学会員が積極的に国際的活動について発言する場を設けられないかと考えています。第三に、他の常置委員会と協働して国際交流に取り組むことも重要と考えています。委員の役割分担、責任の所在などの課題はありますができるところから開始できればと考えています。皆様の忌憚ないご意見を歓迎いたします。

国際活動委員

高島和歌子（熊本赤十字病院）
奥村 潤子（日本赤十字豊田看護大学）
松尾 文美（日本赤十字本社 看護部）
東 智子（日本赤十字社幹部看護師研修所）

松田日登美（国家公務員共済組合連合会東海病院）
伊藤 明子（名古屋第二赤十字病院）
協力者：河合利修（日本赤十字豊田看護大学）

広報委員会

広報委員会 委員長 奥村潤子

日本赤十字看護学会のホームページは先期末までの広報委員会のご努力で大幅に改定されてきました。迅速に日本赤十字看護学会の活動を広く伝え、学会員間の双方向性を実現するために、1) 個々の会員へID、パスワードを発行し、電子掲示板を設置、2) 各委員会の活動内容や学術集会等で行った交流集会等の内容を掲載、3) 英語版ホームページの開設、4) 電子学会誌・検索システムの実装と、日本赤十字看護学会誌に掲載されていた論文等の登録等がされています。今期は、日本中の会員の皆さまのニュースをお伝えするために、こまめに足を使って「取材活動」も組み入れたいと思っています。

また、ニュースレターは情報交流を目的として、学会からの情報発信や会員の声・情報を紹介してきております。ホームページのみの情報発信のみで十分ではないかとのご意見もいただくことがございますが、もうしばらくは、二本立ての情報発信・交流を継続したいと考えております。

本学会及び委員会の活動について会員の皆様の忌憚ないご意見を歓迎いたしますので、ホームページ上の掲示板、あるいは広報委員会へのメール（ホームページ上からリンクされます）などいつでもご連絡ください。お待ちしております。

広報委員

杉浦美佐子（日本赤十字豊田看護大学） 小森 和子（名古屋第一赤十字病院） 小林 純子（日本赤十字豊田看護大学）
原 玲子（宮城大学） 片岡笑美子（名古屋第二赤十字病院） 竹内 貴子（日本赤十字豊田看護大学）

災害看護活動委員会

災害看護活動委員会 委員長 小原真理子

災害看護活動委員会は、赤十字の災害看護に関する活動をさらに発展させるために平成20年度に立ち上りました。皆さまご存じの通り、災害時の国内及び国際救護活動は日本赤十字社の使命であり、長い歴史の中で培われてきた赤十字の災害看護活動が、現代でも脈々と伝承されてきております。経験豊富な赤十字の災害看護に関する経験知をあらためて掘り起こし、共有する資料や場を提供するなど、赤十字災害看護の発展に資するために活動することを、災害看護活動委員会の目的としております。

平成20年度は発足1年目でありながら、赤十字教育機関における災害看護教育の実態、赤十字及び赤十字外の医療機関における救護班の出勤体制に関する調査活動を行い、第10回日本赤十字看護学会にポスター発表を行っております。また交流セッションでは、「災害急性期の看護を基礎教育や継続教育でどのように伝えてゆかか」などについて参加者と議論を行いました。さらに2008年12月6日（土）災害看護の発展のために「もっとよく知ろう!DMATと赤十字救護班」をテーマに第1回災害看護セミナーを開催し、約260名の参加者がありました。本セミナーでは、

赤十字救護班の活動が、災害急性期の活動を専門とするDMATとどのように協働すれば被災傷病者に対するケアの質を向上させていくことができるのかについて議論を行いました。

平成21年度は、第11回日本赤十字看護学会で「災害看護技術の伝承」をテーマに、交流セッションに参加する予定です。また20年度に続き第2回災害看護セミナーを開催し、始動した日赤DMATの全体構想と具体的な取り組み、将来の方向性について明らかにし、日本赤十字社の各医療施設や救護員、日本赤十字看護学会がどのようにコミットしていくのかについて議論したいと企画しております。皆さまの参加をお待ちしております。詳細は学会ホームページを参照してください。このように会員の皆さまと一同に会する場づくりや調査活動から得られた情報提供をモットーに活動していきたいと思っています。

委員長が交代しましたが、構成メンバーは変わらず活動してまいりますので、会員の皆さま宜しくお願いします。

災害看護活動委員

前田久美子（大森赤十字病院） 谷岸悦子（杏林大学） 小林洋子（日本赤十字社幹部看護師研修センター）

第3期の理事長を務めて

新道 幸恵（日本赤十字広島看護大学）

私は、平成18年度から3年間、日本赤十字看護学会（以下、日赤看護学会という）の3期目の理事長を務め、学会創立10周年記念式典及び事業を行って、任期を終了しました。その3年間に理事会活動を中心に振り返ることにします。

私が理事長をお引き受けしたときには、看護の学術学会は既に30を越す程に多くなっていました。そのような状況のなかで、一体、日赤看護学会の存在意義は何か、また、向かうべき方向は何かを考えることを学会運営の出発点に致しました。そのはじめとして、設立趣旨を吟味することにしました。本学会は、「赤十字の理念」を共通の理念として、国際的なネットワークをもつ赤十字活動を意識し、「全国にまたがる赤十字看護関係機関と協力しながら、看護の教育・研究と実践を統合し、推進させていく母体とすること、実践、科学としての看護学を追究し、従来の医療のあり方を客観的に検証し、新しい看護学のあるべき姿を探ること」を目的として設立したとあります。即ち、「Humanity」という赤十字の理念のもとに、それらに関心のある人々を会員とし、グローバル化の時代における国際的視野の基に、教育、研究、実践の統合を目指し、実践の科学である看護学の実践の側面を重視していることに、本学会の存在意義があり、今後共に、目指す方向であることが明らかにされています。

本学会の会員は、創設時の1200人余りから約10年間で約100人の増加しか見られません。ここにも本学会の特性があります。本学会は実践の場で活躍している会員が過半数を占めています。その人々の中には、学会発表前に会員として登録し、日赤系の病院を退職すると同時に学会をも退会するか連絡先不明になる人が多いのです。しかし、この会員に臨床の人々が多いことは「教育、研究、臨床の統合」を目指している本学会の今後の在り方を検討するには意義のあることと思われまます。100年以上の看護教育の歴史のある日赤の看護教育の成果として、臨床において蓄積、発展されている「日赤の看護の知」を発掘し、研究、教育への再統合をはかって、さらなる発展をさせることも本学会の重要な活動と思われまます。そこで、平成18年度から臨床看護実践開発事業を開始しました。この事業は平成17年度の理事会からの申し送りでもありました。この事業では

先ず、「赤十字の伝えたい看護の技」をすくい上げることを目標に、学術集会での交流集会、面接や原稿依頼を通して情報収集し、その看護の技の「ひとこと集」を発行することができました。

私たちの第3期目の理事会では、赤十字の学会としての活動として、上述の事業の他に、平成19年度に国際活動委員会を、平成20年度に災害看護活動委員会を新たに発足させました。「Humanity」を理念として、国際的に救援活動を行ってきた我が国の看護師の活動によって蓄積された赤十字の「臨床の知」を「形式知」として後世の人々に共有できる物とすることは日赤看護学会の使命です。また、グローバル化の今日、世界の赤十字の看護関係者とつながり、「赤十字の看護の知」を確認しあったり、相互に交換して、さらなる発展をさせることも、本学会の重要な課題と考えました。このほかに、平成20年度に、「研究奨励賞制度」を発足させて、学会誌の創刊号から近刊号までに掲載された優秀な論文を選考委員会を選び、賞を授与することも新たに開始し、副賞の盾のデザインも決定しました。平成20年度には、2つの論文を選考し、総会で賞の授与式を行いました。この制度は研究と論文作成の労苦をねぎらい、その成果を表彰することと、優秀な論文の投稿を促進することを期待して発足することにしました。

第3期の理事会では、前理事会から引き継いだ委員会活動の中で、新たな取り組みを始めたものもあります。その一つが学会誌の発行を行ってきた編集委員会の活動です。学会誌を時代の要請に応じて第8巻からB5からA4サイズに変更しました。また、投稿数が増加したこと、編集業務の精度を上げることなどを理由に、第9巻から編集事務作業を業者委託にしたこと、第10巻から年間2号を発行することを決定してきました。学会誌は、言うまでもなく、会員をはじめ、会員以外の人々に本学会の特性及び活動の実態や方向性を披露する重要な場とも言えます。さらなる充実が期待されます。

本学会はようやく10周年を迎えたばかりです。日本赤十字の歴史から見れば、一里塚にたどり着いたばかりと言えましよう。今後ますます発展し、100年以上の歴史が刻まれることを祈念しております。



第10回学術集會を開催して

第10回日本赤十字看護学会学術集會会長 守田美奈子

平成21年6月20日(土)、21日(日)の2日間にわたり「語ろう看護の夢」というテーマで第10回日本赤十字看護学会学術集會を開催しました。無事に集會を終了することができましたのも、今回ご参加頂きました会員の皆様、そして講演会、シンポジウム、テーマセッションなどの企画運営に携わっていただきました皆様方のおかげです。心より感謝申し上げます。また、運営に際しましては、本学の学長、学部長をはじめ教職員、学生が一丸となって取り組んで頂きましたことにも深く感謝申し上げます。今回は学会発足10周年という記念すべき年にあたり、記念式典と合わせての開催となりました。記念式典ではシンポジウムも同時に開催され、学会発足10年の歴史を振り返るとともに、これからの赤十字看護学会の使命や方向性も話し合われました。

今回の集會は記念式典に加え、シンポジウムや教育講演、特別講演に加えスウェーデンの共同研究報告などもありました。記念式典のシンポジウムで議論されたことが、次のテーマでの議論に繋がるといった輪唱のような効果をもたらす、看護の専門性や役割など今日的な課題を深く考えさせられたと個人的には感じました。また、赤十字の看護実践、活動の特徴ということも交流集會などそれぞれのテーマで展開されており、どこの会場でも、たくさんの方が参加され熱心に議論されていたのが印象的でした。

当初、企画委員会で学術集會のテーマやプログラムを検討していたときの思いは、会員の皆さまに「集會に来て元気になった」とか、「明日からまた看護をがんばろう」と思っていただけのような集會にしたいという

ことでした。いろいろと暗いニュースが多いなか、集會に参加して新しい情報だけでなく、看護へのエネルギーが得られるような、そんな集會をと思って1年間準備してまいりましたが、「忘れていた看護への夢を思い出しました」あるいは「看護っていいなと思った」「看護の仕事について考えを深めるきっかけとなった」「これからの励みになる、明日からまた頑張ろうと思えた」といった参加者の方々のアンケートでのお声を伺うと、その目的をかなり果たすことができたのではないかと考えております。アンケートはごく一部の方からしか頂けなかったのですが、教育講演や、シンポジウムなど、それぞれに対する満足度は80%を超えておりました。よい点だけでなく、プログラムが多く口演と重なり聞けなかったことや、運営に関する改善点などのご意見も頂きました。

今回の参加者は約540名、また演題数も80を超えました。懇親集會にも100名近い方にご参加頂きました。たくさんの方にお出で頂いたことで多くの交流が生まれ、その分、刺激が多い集會になったのではと考えております。

集會の準備に取り掛かったときは、その役割の重さに大変緊張しておりました。しかし周囲の先生方に支えられ、いろいろと教わりながら準備を進めることができました。いまとなっては、とても楽しく、そして貴重な経験をさせていただいたと思います。企画委員、実行委員の先生方にあらためて感謝申し上げます。最後に、日本赤十字看護学会のますますのご発展をお祈り致します。

第11回 日本赤十字看護学会学術集會にあたって

日本赤十字北海道看護大学
会長 石井トク

第11回日本赤十字看護学会学術集會を日本赤十字北海道看護大学にて開催いたします。期日は平成22年6月19日(土)20日(日)です。

オホーツク圏に位置する北東の大地、北見において学術集會を開催できる幸運に教職員一同感謝しております。奇しくも第11回は日本赤十字北海道看護大学創立11年と合致、10周年の「節目」に「1」の数を加え、新たな再挑戦の第一歩を踏み出すときでもあるからです。さらに、「赤十字思想誕生」151年でもあります。

そこで、メインテーマを「看護師の品格を考える」といたしました。「看護職」ではなく「看護師」としたのは、看護師の基礎教育で「品格」を教育する必要性からきています。また、国民の健康を担う看護職の専門性に、新たな役割の拡大と責任が期待されてきているからです。

メインテーマに対する看護職の個々の反応は「同感」、「否定」、「困惑」、「無反応」等さまざまでした。ときには「品格」についての説明

を求められました。これらの反応が本学術集會企画の目的です。今の時代だからこそ看護師の品格について皆様と共に考えたいと思います。

特別講演には、小玉香津子による「古いは新しい、新しいは古い～フロレンス・ナイチンゲールの品格～」を予定しております。

教育講演、シンポジウム、指定交流集會、テーマセッション、一般公募の交流集會、一般口講・示説等を企画しております。

北海道北東に位置する北見の6月は、長い冬を耐え抜いた花が大群落となって、一気に開花いたします。そのスケールの大きさに目を奪われるだけではなく、豪華絢爛、優雅さに自然の生命力の強さと、したたかさを感じることでしょう。

自然の大地に抱かれながら、専門職の原点である看護師の品格について考え、大いに語り合ひましょう。

多くの皆様の参加を関係者一同、心からお待ちしております。

世界看護学会第一回学術集會が開催されました

本学会が発起団体として支援しました世界看護学会第一回学術集會が2009年9月19日～20日、神戸で開催されました。日本赤十字看護学会からは、中木高夫先生が代表で出席しました。詳しくはホームページをご覧ください。

<http://jrnsns.umin.ne.jp/index.html>

「第11回日本赤十字看護学会学術集會」演題を募集中です

平成22年6月19日(土)20日(日)、第11回日本赤十字看護学会学術集會を日本赤十字北海道看護大学にて開催いたします。演題募集期間は2009年11月30日(月)～2010年1月29日(金)です。詳しくはホームページをご覧ください。

<http://www.rchokkaido-cn.ac.jp/kango11th/index.htm>

+ NEWS LETTER The Japanese Red Cross Society of Nursing Science Vol.7, 2009.
日本赤十字看護学会ニュースレター 第7号 2009年12月発行

- 発行 日本赤十字看護学会 広報委員会
愛知県豊田市白山町七曲12番33 日本赤十字豊田看護大学内 FAX 0565-37-8558
- 学会ニュースレターは学会ホームページからダウンロードできます。
<http://jrnsns.umin.ne.jp>
- 学会ニュースレターに関する皆様のご意見・ご感想をお待ちしています。
t-takeuchi@rctoyota.ac.jp
sugiura@rctoyota.ac.jp までお願いします。

- 編集後記
皆様のご協力を賜り、第7号ニュースレターを発刊することができました。本学会及び委員会の活動について、会員の皆様の忌憚ないご意見を歓迎いたしますので、ホームページ上の掲示板、あるいは広報委員会へのメールなどを活用しご連絡ください。お待ちしております。